

Title	社会学研究科紀要第78号掲載論文
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	2015
Jtitle	慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要：社会学心理学教育学： 人間と社会の探究 (Studies in sociology, psychology and education : inquiries into humans and societies). No.79 (2015. )
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000079-0164">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000079-0164</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 社会学研究科紀要第78号掲載論文

### 内 容

論 文		
無発語自閉症児の音声コミュニケーションと対人的相互作用の 促進に及ぼす逆模倣の効果：事例研究……………	石塚祐香・山本淳一……………	1
カレッジの教授課程と専門職養成の関係 ——1777-1828年のイエールの事例を中心として——……………	原 圭寛……………	17
ヴァインセント・ティントのラーニング・コミュニティ論 ——学生の学問的生活を共同化する試み——……………	間篠剛留……………	31
「和harmony」としての夫婦間情緒 ——1890~1920年代における「夫婦相和シ」の解釈とその論理構成——……………	本多真隆……………	47
現代トルコの改革主義的イスラーム復興運動に関する一考察 ——フェトフッラー・ギュレン運動の理念を中心として——……………	鈴木慶孝……………	63
1980年代以降のピアノ文化 ——ピアノ文化の繁栄と高級なアマチュア——……………	本間千尋……………	85
〈趣味〉と〈闘争〉 ——1920-30年代のアマチュア映画の公共性——……………	後藤一樹……………	109
エスニック・マイノリティの位置づけをめぐる政治 ——スチュアート・ホールによるマイノリティ表象についての分析を手掛かりとして……………	新嶋良恵……………	139
書 評		
中山京子 2012 『先住民学習とポストコロニアル人類学』 御茶の水書房……………	濱 雄亮……………	155
平成25年度博士課程学生研究支援プログラム研究成果報告		
A. シュッツの時間論の展開と、その現代的意義の解明……………	鳥越信吾……………	163
インド、アルナーチャル・プラデーシュのモンパに見る民族表象と伝統の変化の動態……………	脇田道子……………	166
地域社会における宗教者をめぐるネットワーク ——福岡県ウツシ霊場篠栗の事例からみて——……………	ラモット・シャルロット……………	168
発達障害児支援のための保育士トレーニングプログラムの開発と評価……………	松崎敦子……………	171
眼球運動のオペラント条件づけによる選択行動の予測と制御に関する実験的検討……………	森井真広……………	175
教育における「主体性」概念の研究 ——高坂正顕の教育思想を中心に——……………	山田真由美……………	179
E・D・ハーシュ、Jr.の「文化的リテラシー」論……………	翟 高燕……………	182
W. ジェイムズ教育論の思想的基盤に関する研究 ——「経験」概念の検討を中心に——……………	岸本智典……………	185
大学における「ラーニング・コミュニティ」の思想史的研究……………	間篠剛留……………	188
学事報告		